

中 学 校

平成 2 3 年度

# 教育研究員研究報告書

## 特別活動

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究のねらい	1
II	研究の視点	1
III	研究構想図	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
1	基礎研究	4
2	調査研究	7
3	学級活動の年間指導計画例	8
4	指導事例 1 「友達の紹介をしよう」	9
	指導事例 2 「友達と自分のよいところを知ろう」	10
	指導事例 3 「好きな言葉を紹介し合おう」	11
	指導事例 4 「学校行事での互いの活躍を認め合おう」	12
5	検証授業 1 「2学期の個人目標をつくろう」	13
6	検証授業 2 「学級のよいところに貢献している人を知ろう」	17
VI	効果検証と研究の提言	22
1	効果検証の概要	
2	効果検証の分析と考察	
3	研究の提言	
VII	研究のまとめと今後の課題	24
1	研究のまとめ	
2	成果	
3	今後の課題	

# 研究主題「学級集団を高める態度を育てる特別活動の工夫」

～自他を知り、互いに認め合う学級活動を通して～

## I 研究のねらい

中央教育審議会答申では「自分に自信がもてず、将来や人間関係に不安を感じているといった子供たちに、他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で、これらと共に生きる自分への自信をもたせる必要がある」と述べられている。それを受けて、今回の学習指導要領の改訂では特別活動の目標の中に「人間関係」の文言が加えられた。学級活動の目標も新たに示され、その中で「望ましい人間関係を形成」することが求められている。

学級活動において育てたい「望ましい人間関係」とは「豊かで充実した学級生活づくりのために、生徒一人一人が自他の個性を尊重するとともに、集団の一員としてそれぞれが役割と責任を果たし、互いに尊重しよさを認め発揮し合えるような開かれた人間関係である」と学習指導要領に示されている。しかし現状では、自分のよさを肯定的に捉えることができずに自分に自信をもてない

生徒が多く、学年が進むにつれて自尊感情や自己肯定感が低下する傾向があるという報告（東京都教職員センター紀要8・9・10号）がある。本研究員の所属校における生徒の実態から「自分は他の人の役に立っていないのではないか」という不安な言動があった。そのような生徒の傾向や不安が、人と関わろうとする意欲を阻害しており、学級や学校における望ましい人間関係の形成や集団を高める活動を難しくしているのではないかと考えた。また、各学校においては、集団の向上の視点で自分や学級の友達の個性を理解し尊重する指導の工夫が十分とは言えない現状が少なからずあり、この点において改善の余地があるのではないかと考えた。

また、生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）には「発達の段階に応じて、児童生徒による自発的な活動を重んじ、成就感や自信の獲得につながるような間接的な援助に努めることが大切」とあり、学級集団において自己の個性が認められる体験が求められていることが分かる。

そこで、自他を知り互いに認め合う学級活動の工夫を行うことで、これらの状況を改善し、自他を尊重する生徒が育ち、集団を高めようとする態度が育つと考え、本研究主題を設定した。

## II 研究の視点

前述のように、学級集団を高める態度を育てる特別活動を展開するには、自他を知り互いに認め合う集団活動の工夫を行うことが必要であると本研究では考えた。そこで、学級活動において、自分のよさと学級の友達のよさを尊重し、学級集団を高める態度を育てるために必要な指導計画と活動の展開の工夫について検討した。研究の成果については、検証前後の生徒の変容を捉えるとともに、他者を尊重する態度を図る調査と集団の向上に関する調査を独自に作成し、変容を分析することとした。なお、自尊感情については東京都が平成22年度に作成した「自尊感情測定尺度（東京都版）」を活用した。

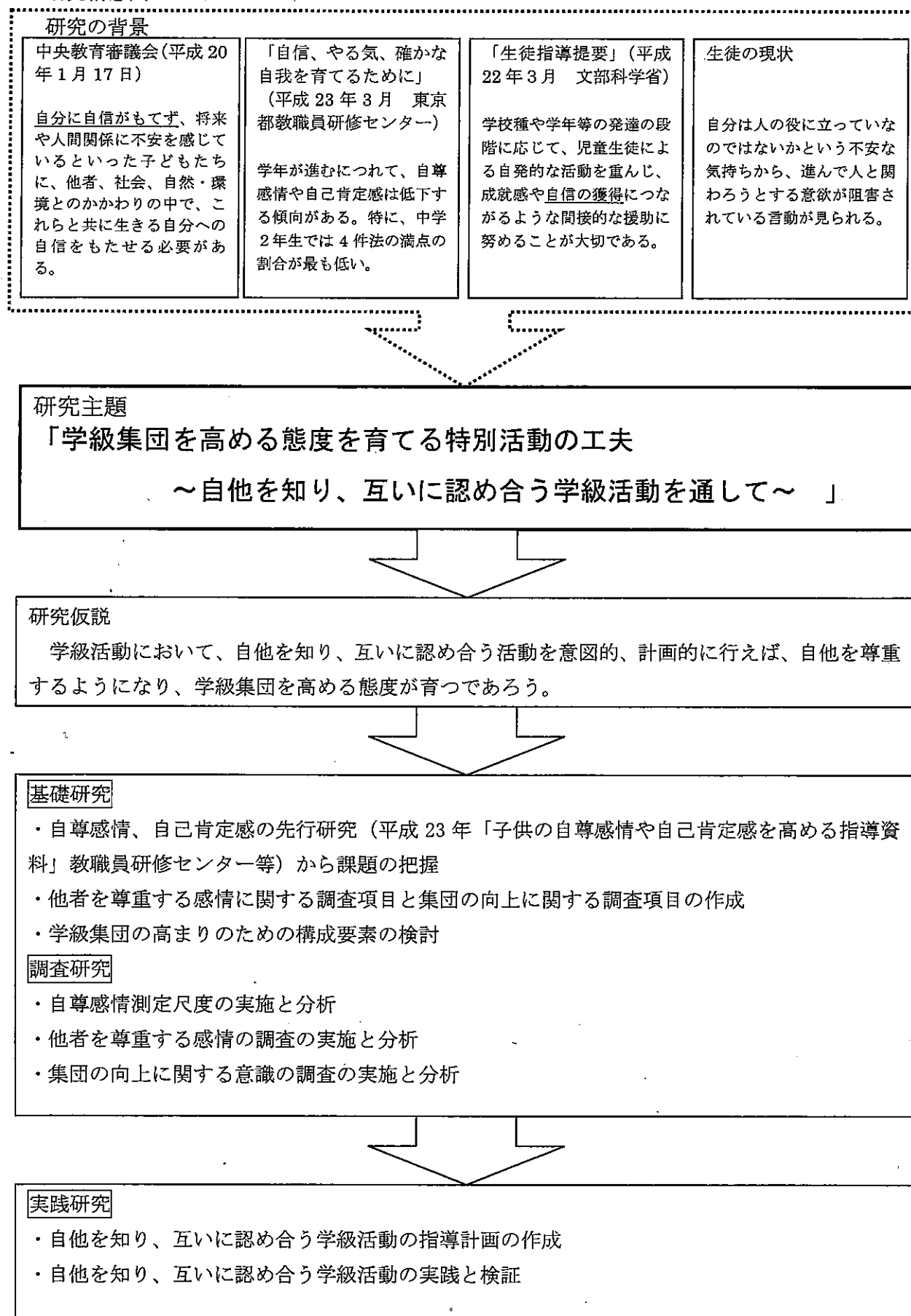
### <特別活動の目標>

望ましい人間関係を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

### <学級活動の目標>

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

### III 研究構想図



#### IV 研究の方法

特別活動における望ましい集団活動を通して、生徒一人一人が個性の伸長を図り、自己を生かす能力を養う。とりわけ、学校の基礎的な生活の場である学級においては、自己の個性を見つめ、それを大切にし、自己確立や自己実現を図ることが望ましい。同時に、学級の友達の個性を理解し互いに尊重し合うことは自己理解を一層深めるとともに、豊かな人間関係を育んでいくことにつながる。そこで、学級活動を通して、生徒が自分と学級の友達の個性やよさを知り、認め合うことで、学級を大切に思う生徒を育てていくのが本研究での大きなねらいとする。このねらいに迫るためには、生徒がどのように自分を認め、学級の友達を認めているのか、また自分が所属する学級集団を高めるためにどう関わっているのかを把握するための実態調査を実施する。次に、より自他を知り、互いに認め合えるような活動の指導方法の立案や指導計画及び年間指導計画の作成を行い、検証授業の後にその効果検証を行う。具体的には以下のとおりである。

- 1 「自他を知り、互いに認め合うこと」について、次の三つの視点から実態を把握する。
  - (1)自分を大切にす意識調査（以下「自尊感情測定尺度」（東京都版））

平成 23 年 3 月東京都教職員研修センター編の「自信やる気確かな自我を育てるために」（子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料）の自尊感情測定尺度（東京都版）の 22 項目調査を行う。
  - (2)学級の友達を大切にす意識調査を基に、学級の友達をどのくらい大切にしているのかを測る目的で、本研究で開発した 14 項目調査（P. 6 表 2）を行う。なお、自尊感情測定尺度（東京都版）の 22 項目調査と 14 項目調査（P. 6 表 2）との質問項目の関連は、P. 7 図 2 に示す。
  - (3)学級集団の高まりに関する意識調査
    - (1) (2) の調査を基に自分が所属する学級集団を高めるためにどう関わっているのかを測る目的で、本研究会で開発した 3 項目調査（P. 7 表 3）を行う。
- 2 自他を知り、互いに認め合う学級活動の年間指導計画例を作成する。

学級活動の内容 17 項目を実施するに当たり、より自分を知り学級の友達を知り認め合うことができるように内容項目の配列を工夫した。また学校行事や生徒会活動など他の特別活動の内容と関連してより効果的に活動を展開するために、指導計画を再構築した。（P. 8 年間指導計画例）
- 3 自他を知り、互いに認め合う学級活動の指導方法の工夫を行う。

生徒が学級の中で自他を大切にしている学級集団に育てるためにどのような方法が有効なのか、その指導方法の文献研究を行い、先行実践について研究員間で検討する。そして、それらの方法を用いた効果的な指導計画の立案を行う。（P. 9～12 指導事例）
- 4 自他を知り、互いに認め合う学級活動の検証授業を行う。

教育研究員が所属する学校で、自他を知り、互いに認め合う学級活動を検証し、授業前後の生徒の変容からその成果と有効性を分析する。
- 5 効果検証を行う。
  - 1 (1)自分を大切にす意識調査、(2)学級の友達を大切にす意識調査、(3)学級集団の高まりに関する意識調査について検証授業前後の調査結果を比較することで、効果検証を行う。

## V 研究の内容

### 1 基礎研究

学級集団を高める態度を育てる特別活動を展開するためには、自他を知り互いに認め合う集団活動の工夫を行うことが必要であると本研究では考えた。本研究では、「自他を知り互いに認め合う」とは、「自分や学級の友達によさを肯定的に認め合い、自分や学級の友達をかけがえのない存在として捉える」とした。さらにそれを、「自分のよさを肯定的に認め、自分をかけがえのない存在として捉える気持ち」と「友達によさを肯定的に認め、友達をかけがえのない存在として捉える気持ち」とした。

一方、東京都では平成 20 年度から子供の自尊感情に関する研究を行っており、その中で、自尊感情を「自分のできることできないことなどすべての要素を包括した意味での「自分」を他者との関わり合いを通してかけがえのない存在、価値ある存在として捉える気持ち」と定義している。平成 22 年度には、子供の自尊感情を測定するための尺度を開発している。そこで、本研究では、「自他を知り互いに認め合うこと」を測定するために、東京都が開発した自尊感情測定尺度（平成 22 年東京都教職員研修センター）（P. 5 表 1）と、それを参考にして本研究で開発した「他者を尊重する測定尺度」を活用することとした。「他者を尊重する測定尺度」は、自尊感情測定尺度 22 項目を参考にして作成し、14 の質問項目（P. 6 表 2）で調査を行った。

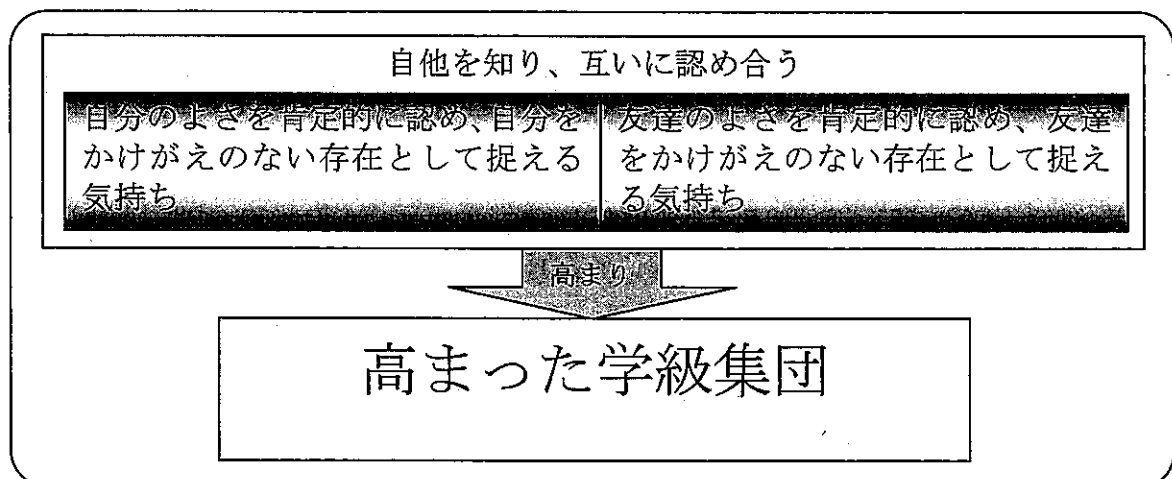
また、高まった集団を示す要素について、本研究で検討したところ、①リーダーシップを意識する、②互いに認め合える、③互いに助け合える、④話し合える、⑤学級目標を意識する、⑥互いに高め合える、⑦心の居場所がある、⑧学級のきまりやルールが守れる、の 8 要素（図 1）と考えた。そこで、「学級集団の高まりに関する意識調査」については、「自分は、学級目標を意識して生活している」「自分は、この学級の居心地がいいと思う」「自分は、学級の友達と認め合い、助け合うことができていると思う」の 3 項目（P. 7 表 3）として調査を行った。

#### 高まった集団を示す 8 要素

- ①リーダーシップを意識する
- ②互いに認め合える
- ③互いに助け合える
- ④話し合える
- ⑤学級目標を意識する
- ⑥互いに高め合える
- ⑦心の居場所がある
- ⑧学級のきまりやルールが守れる

図 1

### イメージ図



東京都では、子供の自尊感情の傾向を把握する方法として、次のような自尊感情測定尺度を開発した。本研究部会では、「自分の存在を肯定的に認め、自分をかけがえのない存在と捉える気持ち」を、この尺度を活用して把握することとした。

表1 自尊感情測定尺度（東京都版）平成22年度東京都教職員研修センター

1	私は今の自分に満足している
2	人の意見を素直に聞くことができる
3	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる
4	私は自分のことが好きである
5	私は人のために力を尽くしたい
6	自分の中には様々な可能性がある
7	自分はダメな人間だと思うことがある
8	私はほかの人の気持ちになることができる
9	私は自分の判断や行動を信じることができる
10	私は自分という存在を大切に思える
11	私は自分のことを理解してくれる人がいる
12	私は自分の長所も短所もよく分かっている
13	私は今の自分が嫌いだ
14	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任をもって取り組む
15	私には誰にも負けないもの（こと）がある
16	自分には良いところがある
17	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している
18	私は自分のことを必要としてくれる人がいる
19	自分は誰の役にも立っていないと思う
20	私には自分のことを必要としてくれる人がいる
21	私は自分の個性を大事にしたい
22	私は人と同じくらい価値のある人間である

本研究では、自尊感情測定尺度（東京都版）を参考にして、「他者を尊重する測定尺度」を開発した。本部会では、「友達の存在を肯定的に認め、友達をかけがえのない存在と捉える気持ち」を、この尺度を活用して把握することとした。

表2 「他者を尊重する測定尺度」

◇これは皆さんの気持ちについて、学級の友達との様子を中心にたずねるアンケートです。今の自分の気持ちに近いものを一つ選んで数字に○を付けてください。

( )年( )組( )番 名前( )

		あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	あてはまらない
1	私は今の学級の友達に満足している	4	… 3	… 2	… 1
2	私は今の学級の友達のことが好きである	4	… 3	… 2	… 1
3	私は学級の友達のために力を尽くしたい	4	… 3	… 2	… 1
4	私は学級の友達の気持ちになることができる	4	… 3	… 2	… 1
5	学級の友達の判断や行動を信じていることができる	4	… 3	… 2	… 1
6	私は学級の友達の存在を大切に思える	4	… 3	… 2	… 1
7	学級には自分のことを理解してくれている 友達がいる	4	… 3	… 2	… 1
8	学級の友達の長所や短所をよく分かっている	4	… 3	… 2	… 1
9	友達に迷惑がかからないよう、学級で決めた ことに責任をもって取り組む	4	… 3	… 2	… 1
10	私は今の学級の友達のよさを理解している	4	… 3	… 2	… 1
11	自分のことを見守ってくれている学級の友達 に感謝している	4	… 3	… 2	… 1
12	学級のことは学級の友達の意見を大切にして 決めたいと思う	4	… 3	… 2	… 1
13	自分のことを必要としてくれている学級の 友達がいる	4	… 3	… 2	… 1
14	私は学級の友達を大切にしたい	4	… 3	… 2	… 1



## 2 調査研究

本研究では、東京都が開発した自尊感情測定尺度（平成 22 年東京都教職員研修センター）

（P. 5 表 1）と、本研究部会が開発した「他者を尊重する測定尺度」を活用して、子供の、「自他を知り互いに認め合う」意識を測定するために調査を行った。教育研究員が担当する学級において、この調査を行い、相関を調べたところ、関係があることが分かった（図 2）。このことから、自分を大切にすることと学級の友達を大切にすることには関連があり、自他を知り互いに認

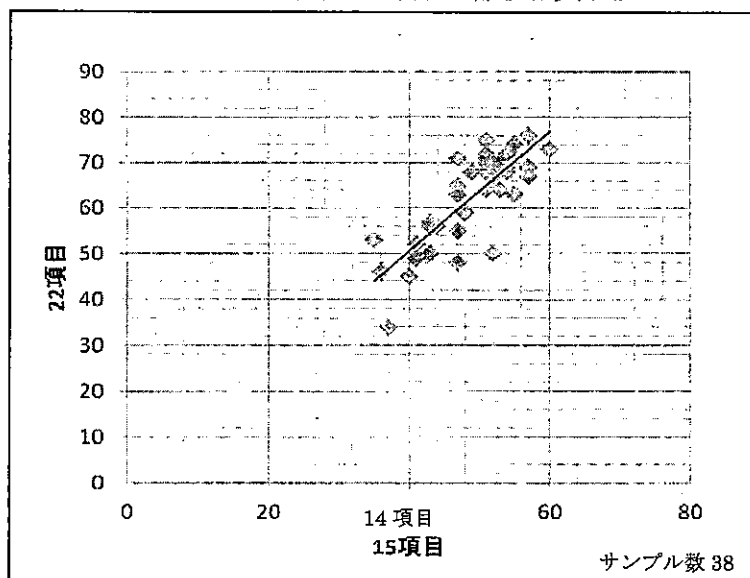


図 2

め合う活動を行えば、学級集団を高めようとする態度を育てることにつながると考え、検証授業を行うこととした。

表 3 集団の高まりに関する調査

<p>年 組 氏名 [ ]</p> <p>次の質問に答えてください。</p> <p>1 自分は、学級目標を意識して生活している。</p> <p style="margin-left: 2em;">1 当てはまる</p> <p style="margin-left: 2em;">2 やや当てはまる</p> <p style="margin-left: 2em;">3 やや当てはまらない</p> <p style="margin-left: 2em;">4 当てはまらない</p> <p>2 自分は、この学級の居心地がいいと思う。</p> <p style="margin-left: 2em;">1 そう思う</p> <p style="margin-left: 2em;">2 ややそう思う</p> <p style="margin-left: 2em;">3 ややそう思わない</p> <p style="margin-left: 2em;">4 思わない</p> <p>3 自分は、学級の友達と認め合い、助け合うことができていると思う。</p> <p style="margin-left: 2em;">1 そう思う</p> <p style="margin-left: 2em;">2 ややそう思う</p> <p style="margin-left: 2em;">3 ややそう思わない</p> <p style="margin-left: 2em;">4 そう思わない</p>
--

### 3 学級活動の年間指導計画例

自分を知る活動	: 自
他者(学級の友達)を知る活動	: 他
互いに高めあう活動	: 互

「自他を知り、互いに認め合う学級活動」の年間指導計画例 (第2学年)

実施月	内容項目	指導内容	自	他	互
4月	(1)ア	年度当初の組織づくり (学級開き、担任の学級経営方針の確認)			○
	(1)ア(1)イ	友達の紹介 【指導事例1 P.9】	○	○	○
	(1)イ	個人目標づくり、新年度の決意 (作文)	○		
	(1)イ	学級の組織づくり	○	○	○
5月	(1)ウ	生徒会組織と学校生活のルールの確認			○
	(2)オ	望ましい人間関係の形成 (コミュニケーションスキル)	○	○	
	(1)イ	学級目標づくり			○
6月	(1)ア	運動会に向けて	○	○	○
	(1)ア(2)イ	好きな言葉を紹介し合う 【指導事例3 P.11】	○	○	
	(1)ウ	生徒総会に向けて	○	○	○
	(2)キ、ケ	「早寝早起き朝ごはん月間」の取組に向けて	○		
7月	(2)エ、ク	男女相互の理解、性的な発達への適応	○	○	
	(3)ウ、エ	望ましい勤労観、職業観の形成、進路情報の活用	○		
	(3)ウ、オ	主体的な進路の選択と将来設計 (職場体験や上級学校訪問に向けて)	○		
9月	(2)キ	心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 (薬物乱用防止、規則正しい生活)	○		
	(2)カ、キ	災害時の安全に関すること			○
	(1)イ	2学期の個人目標づくり 【検証授業1 P.13】	○	○	○
	(3)ア、イ	学ぶことの意義と学習習慣の確立	○		
10月	(1)イ	学級の組織づくり	○	○	○
	(2)イ、オ	友達と自分のよいところ探し 【指導事例2 P.10】	○	○	
	(1)ウ	生徒総会に向けて	○	○	○
	(2)ウ	集団の一員としての自覚と責任 (生徒会の中心学年として)	○	○	○
	(1)イ(2)イ	互いの活躍を認め合う (合唱コンクールを終えて) 【指導事例4 P.12】	○	○	○
11月	(3)ア、イ	学ぶことの意義と学習習慣の確立	○		
	(2)エ、オ	学級のよいところに貢献している人を知る 【検証授業2 P.17】	○	○	
12月	(2)カ	地域ボランティアに向けて			○
	(3)イ	長期休業中の生活設計、年末年始の過ごし方	○		
1月	(1)イ	新年の抱負	○		
	(2)ア	スキー教室に向けて			○
	(2)キ	健康と食生活 (感染症予防)	○		
2月	(3)オ	将来設計づくり (10年後の私)	○		
	(2)ア(3)オ	進路の悩みと将来設計	○	○	
	(2)イ	学級の出来事を振り返り、新しい学年への意欲をもつ 【研究授業】	○	○	○
3月	(1)ウ	上級生から学校のよい伝統を引き継ぐ、3年生を送る会に向けて		○	○
	(3)イ(1)イ	長期休業中の生活設計、2年生を振り返って	○	○	○

※網かけは指導事例を別ページに記載していることを示す。

※想定：3学期制、定期考査4回、運動会5月、職場体験7月、合唱コンクール10月、スキー移動教室1月、生徒総会前後期各1回

## 4 指導事例

■ 指導事例 1 学級活動 (1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 (2) イ 自己及び他者の個性の理解と尊重

### 1. 活動名 「友達の紹介をしよう」

#### 2. 活動の目標

進級時の学級編成替えの際に、自己紹介の代わりに前年度同じ学級だった友達の「他己紹介」を行う。年度当初に友達のよさを振り返り紹介することで、よさを認め合う人間関係を築く雰囲気をつくるきっかけとする。

#### 3. 活動の概要

前年度同じ学級だった生徒で集まり、前年度に感じた友達のよいところや学級に貢献していたこと、すてきなエピソードを話し合う。その後、学級全体に友達の紹介を発表する。

#### 4. 活動の流れと指導の工夫

##### ○活動の流れ

前年度同じ学級だった生徒をグループにし、委員会や係で貢献したことやよいところ、すてきなエピソードをワークシートに記入させる。

グループ内でワークシートに記入した内容を発表し合う。自分の気付かなかった友達のよさが発表されたら、ワークシートに書き足す。

発表する内容を話し合い、本人の意向を確認する。必要があればワークシートに書き足し、発表の準備を行う。

学級全体に友達の紹介を行う。

例：A 君は給食の配膳が上手で、配り終わったときに食缶には残りがありません。手先が器用で、合唱コンクールのポスターも迫力のある作品でした。

##### ○ねらいに迫るための工夫

前年度のよいところや委員会、係で貢献したことを認め合う活動から始めることで、あたためたい雰囲気をつくる。

自分の気付かなかった友達のよさに気付くとともに、友達から認められている自分のよさに気付かせる。

本人が発表してもらいたい内容を踏まえて紹介できるように助言する。自分のよさと容認できない内容については、担任教師が十分に配慮し指導を行う。

##### ワークシートの例

#### 前年度同じクラスだった人のよいところ

※ (委員会や係でクラスに貢献したことやすてきなエピソードなど)

記入者 <sup>※</sup>					
同じクラスだった人の名前					
よいところ <sup>※</sup>					
名前					
くすね					
よいところ <sup>※</sup>					
名前					

#### 5. 評価

- 友達のよさを振り返る活動を通して、友達のよさと自分のよさを認めることができたか。
- よさを認める大切さに気付き、新しい人間関係を築く前向きな態度をもつことができたか。

■ 指導事例 2 学級活動 (2) イ 自己及び他者の個性の理解と尊重 (2) 才 望ましい人間関係の確立

1. 活動名 「友達と自分のよいところを知ろう」

2. 活動の目標

中学2年生になると自分なりの生き方・在り方についての意識が高まってくる。しかし理想と現実のギャップに悩んだり、他人の目を意識して人と異なることへの不安を抱いたり、自分に自信がもてず、目標を見つけてあげることができない生徒もいる。そこで自分のよさを見出し、それを伸ばそうと努める意欲を培うことを目標にした。

4. 活動の流れと指導の工夫

○活動の流れ

ワークシートに書かれた「よいところ」の質問項目から同じ班の友達のよいところを選ぶ。  
例) 明るい態度で人に接している・相手の気持ちや立場を考えて行動する・仕事をきちんとするなど

○ねらいに迫るための工夫

よいところを出しやすくするため、集団生活に必要な要素ごとに選択肢を設け、また自分で考えたよいところを書く欄を設ける。

ワークシートの質問項目から自分の良いところを選ぶ。

学級や学校の実態に合わせて、ワークシートの質問項目を工夫するとよい。自己と他者の評価を比較しやすいシートにする。

友達の選んだ「よいところ」と自分で考える「よいところ」を照らし合わせ、感じたことや考えたことを発表する。

自己評価と他者の評価を比較して感じたことと、それを踏まえてこれからの生活に生かすことを考えられるよう、自由に記述ができるようにする。

3. 活動の概要

ワークシートを使って、最初に「友達のよいところ」を考えさせ、その後「自分のよいところ」を評価させる。他者の評価と自分の評価を比べることで、自分では気付かなかったよさを見つけたり他者の評価との違いに気付かせたりして自分自身を知るチャンスとさせたい。

自分と他者の評価を比べて感じたことから、今後の目標などを設定し発表させる。

ワークシートの例

質問項目	自分の評価	他者の評価
1. 好きなこと	○	○
2. 得意なこと	○	○
3. 得意な科目	○	○
4. 得意な先生	○	○
5. 得意な友達	○	○
6. 得意な活動	○	○
7. 得意な場所	○	○
8. 得意な食べ物	○	○
9. 得意な季節	○	○
10. 得意な動物	○	○
11. 得意な植物	○	○
12. 得意な色	○	○
13. 得意な言葉	○	○
14. 得意な音楽	○	○
15. 得意な映画	○	○
16. 得意な漫画	○	○
17. 得意なゲーム	○	○
18. 得意なスポーツ	○	○
19. 得意なゲーム機	○	○
20. 得意なキャラクター	○	○
21. 得意なキャラクター	○	○
22. 得意なキャラクター	○	○
23. 得意なキャラクター	○	○
24. 得意なキャラクター	○	○
25. 得意なキャラクター	○	○
26. 得意なキャラクター	○	○
27. 得意なキャラクター	○	○
28. 得意なキャラクター	○	○
29. 得意なキャラクター	○	○
30. 得意なキャラクター	○	○

5. 評価

- ・自分のよいところを発見し、更に自分のよさを伸ばす目標を考えることができたか。
- ・他者のよいところを発見し、あらためて仲間意識を喚起することができたか。

自己評価と他者の評価を比較して、どのような感想や気づきがあったか？  
自分のよいところや他者のよいところを具体的に挙げて、自分自身や仲間を褒めたいところを具体的に挙げて、自分自身や仲間を励ましたか？  
自分と他者の評価を比べて感じたことから、今後の目標などを設定し発表させたか？

■ 指導事例 3 学級活動 (1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 (2) イ 自己及び他者の理解と尊重

1. 活動名 「好きな言葉を紹介し合おう」

(自信 やる気 確かな自我を育てるために～子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料～【基礎編】東京都教職員研修センター 平成23年3月)

2. 活動の目標

「好きな言葉」について学級の友達と交流する活動を通して、自分や友達への理解を深めさせ、様々な考え方を認める態度を身に付けさせる。

3. 活動の概要

歌詞や名言、小説の一部から「好きな言葉」を選び、好きな理由を考え発表する。発表された「好きな言葉」を読み合い、感想を伝え合うことで様々な考え方があることを認め合うための活動である。

4. 活動の流れと指導の工夫

○活動の流れ

前日の帰りの学活で班長会から「好きな言葉」を紹介する活動をする旨と歌詞や名言、小説の一部から紹介できるように準備して伝える。

カードに「好きな言葉」と好きな理由を記入し、班の形にした机の上に出し合う。班ごとに時間を決めて巡回するなどして、互いのカードを読み合う。

共感できるものについて付箋紙に感想を書いて友達のカードに添付したり、共感することを示すシールを貼ったりする。

活動を振り返り、自分や友達について発見したことや感じたことについて、班で感想を述べ合う。

○ねらいに迫るための工夫

事前に班長会を開いて、本活動のねらいや流れについて担任から説明し、活動を生徒主体で行うことができるように役割分担を行う。

好きな言葉が複数ある生徒のために、カードは多めに用意し、自由に表現できるように配慮する。個人的に大切にしたい言葉については一律に公にしなくてよいことを助言する。

口頭で感想を伝えることに消極的な生徒も、友達のカードを読み、付箋紙に感想やメッセージを記述することで友達との関わりを十分にもてるようになる。

カードの例

好きな言葉

作者、著者、アーティスト名  
作品名、曲名  
好きな理由

5. 評価

- ・「好きな言葉」を通して自分と学級の友達への理解を深めることができたか。
- ・様々な考え方を認める態度が身に付いたか。

■ 指導事例 4 学級活動 (1) イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 (2) イ 自己及び他者の個性の理解と尊重

1. 活動名 学校行事での互いの活躍を認め合おう (合唱コンクールを終えて)

2. 活動の目標

各行事での取組を生徒同士で評価し合うことにより、協力することや積極的に取り組むことの大切さを学ぶ。また、学級において努力したことや自信をもたせる。

3. 活動の概要

各行事後に生徒に用紙を配り、様々な場面で努力したと思う人を書かせる。名前の挙がった生徒全員をクラスのMVS (学級のために最も価値のある活動をした生徒) として表彰する。年間を通して、全員の生徒を表彰できるよう適切に指導する。

4. 活動の流れと指導の工夫

○活動の流れ

体育祭や合唱祭などの各行事前 (特別練習期間などの設定がある場合はその前) に、クラス全体にMVSを行うことを伝える。

○ねらいに迫るための工夫

各行事の当日のみの評価ではなく、練習期間などを含めた取組全体を評価するよう促す。

行事後の朝学活などの時間に用紙を配り、がんばって取り組んでいたと思う生徒の名前と、その理由を書かせる。

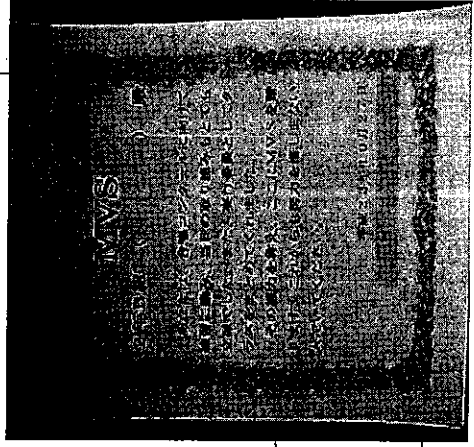
真摯な気持ちで記入させるためにその人だと思ふ理由は必ず書かせるようにする。また、必要であれば机間指導する。

放課後集計を行い、記入された名前とその理由を全て書き出す。また、名前の挙がらなかった生徒の活躍も振り返る。

記入された名前と理由を全て書き出すことにより、クラス全員の生徒の意見を発表するようになり、目立つ生徒だけでなく、陰で頑張っている生徒も評価するよう適切に指導する。

翌日の朝学活などの時間に、代表委員に名前の挙がった生徒とその理由を全て発表させる。MVSとしてクラスで表彰し、賞状 (資料) を渡す。

資料



5. 評価・協力して行事に取り組んだか。

- ・MVS候補の記入がしっかりできたか。
- ・MVSになった生徒を温かく称賛できたか。

5 検証授業 1

(1) 題材 「2学期の個人目標をつくろう」

学級活動 (1) イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理

(2) 活動のねらい

学級目標を達成するための個人目標を考えることによって、よりよい学級集団を形成する意識を高める。

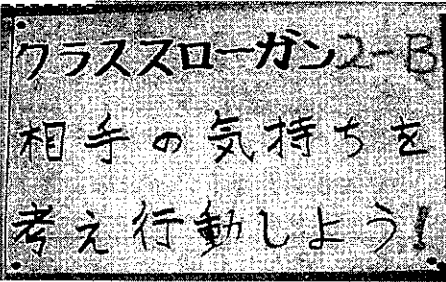
(3) ねらいに迫るための工夫


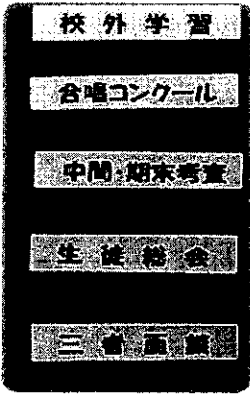

- ・事前に学級目標の達成度や友達のよいところを把握するためのアンケートを実施し、一人一人に学級の現状と課題を考えさせる。
- ・学級の友達や自分のよいところを生かして学級目標を達成する手段を考えさせる。

(4) 評価の観点

観点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
評価規準	学級や学校の生活の充実と学級目標に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級目標達成のための自己の役割と責任を自覚し、自分のよさを生かした自己の目標について考え、実践している。	学級目標を達成する意義や、そのために自分のよさを生かすことの大切さ、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

(5) 展開

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の始まり	<p>事前の活動</p> <p>1 学級目標の達成度や友達のよいところを把握するための調査を実施する (P.16 資料1、2)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に実施できるよう、必要に応じて補足説明を行う。</li> <li>・生徒の思いを聞きながら、本時の流れなどを検討し、活動の見通しをもたせる。</li> </ul>	<p>【知識理解】</p> <p>学級生活に関心をもち、改善の必要性を理解している。</p> <p>【関心意欲態度】</p> <p>活動が深まるよう自主的、自立的に準備を進めようとしている。</p>
	<p>司会 (生徒) 「自分のよいところを生かし、2 学期の個人目標を立てるための調査を行います。」</p>	<p>学級目標</p>	
	<p>2 放課後、班長会 (P.19 参照) を開いて調査を集計する。</p>		

	<p>本時の開始</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会の言葉</li> <li>2 議題の発表</li> <li>3 提案理由の説明</li> <li>4 教師の話</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班長会での検討の経緯について説明するよう助言する。</li> <li>・ 調査結果や提案理由に関する補足をしながら、学級目標を達成できなかった理由を班で話し合わせ、班長に発表させる。</li> </ul>	 <p>班の話合いの様子</p>
<p>活動の展開</p>	<p>5 個人目標（資料3）の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者から見た自分のよさを振り返らせる。</li> <li>・ 2学期の行事を示し、様々な角度から考えるよう助言する。</li> </ul>	<p>【思考判断実践】</p> <p>自分のよさを生かしながら、学級目標達成のための具体的な個人の2学期の目標を考えている。</p> <p>(P.16 資料3)</p>
<p>教師「友達は、あなたたちのよさをよく知っていますね。そのよさを生かした個人目標になるよう考えてください。2学期は行事も多くありますから、そのことも考えて目標を立てるとよいかもしれませんね。」</p>			
<p>活動のまとめ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6 目標の発表</li> <li>7 ワークシート（P.16 資料4）の記入</li> <li>8 教師の話</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人目標を発表させる。</li> <li>・ 本時の活動を通して、自分のよさ、他人のよさについて気付いたことなどを記入するよう助言する。</li> <li>・ 代表委員の活動などを評価するとともに、自分のよさを生かし、他人のよさを認める実践に向けての意欲を高める指導を行う。</li> </ul>	<p>個人目標の発表</p>  <p>【思考判断実践】</p> <p>自分のよさを生かし、立てた目標を達成できる</p>
<p>教師「自分と友達のをさを認め合いながら、目標を立てることができました。これからもお互いを尊重しながらよりよい学級づくりを目指しましょう。」</p>			
	<p>9 閉会の言葉</p>		



## (6) 検証授業の成果

学期始めの事前の活動で行った調査結果より、「学級目標を達成できた」生徒が少ないことが分かった。そこで、今回の実践事例は、学級目標を達成できなかった理由を話し合わせることで、達成するにはどのようにすればよいのかを考えさせ、実践へつなげることがねらいであった。

そのため、友達同士で行った「よいところ探し」を基に、学級目標を達成するための自分のよさを生かした個人目標をつくることにした。よさは誰にも必ずあるものだが、自分では気付きにくいものである。そこで、自分のよさを学級の友達が書き込めるワークシート（P.16 資料2）に順番に記入し、友達からの意見により自分のよさに気付かせることとした。この活動により、普段はあまり話をしない生徒同士もお互いを認め合うよい機会となった。また、自分を客観的に見つめ直すことで自分のよさに気付き、自己肯定感にもつながるよい活動となった。個人目標を立てていく際には、学級目標を達成することを意識して自分を生かすことを考えさせたいが、これまでは学級目標を意識せずに個人目標を立てている生徒が多く見られた。



しかし、今回の検証授業の中で個人目標の意味を再度認識させることで生徒の意識も変わったようである。今までは深く考えずに個人目標を立てていた生徒の中にも、「学級目標を意識すると難しい」、「真剣に個人目標を考えるきっかけとなった」といった意見が見られ、集団を向上させる意識が高まったことが分かる。

本活動を通して、友達や自分のよさを見つめ直し、学級集団の中での自分の役割を考え、よりよい集団にしていこうという積極的な姿勢をもたせるきっかけとなった。それぞれが記入した個人目標は、活動後に教室内に掲示し、いつでも見られるようにした。生徒の変容としては、休み時間などに掲示した個人目標の前に集まる生徒が増え、互いの目標について関心をもち、意見を言い合う場面が見られたことである。学級目標や個人目標を実践しているかを評価するためには、自分の立てた目標の達成度を見直す時間を設定し、普段の生活の中で教師が声かけをしていくことが重要である。

以下は生徒の感想の一部である。

### 生徒の感想（P.16 資料4から）

- ・人を思いやるということがどんなに気持ちのよいものかよく分かった。
- ・相手の気持ちを考えるということはとても大切なことだと思った。
- ・これからも相手の気持ちを考えて行動することを心がけていこうと思う。
- ・改めて学級目標を意識してみようと思った。
- ・みんな学級目標について考え、立派な個人目標を立てることができた。

資料1

学級目標達成アンケート……1学期間あなたは学級目標を意識し、達成できましたか？

2年B組の学級目標『

達成することが ( できた ・ できなかった )

資料2

級友からみた私とは？

……クラスメイトは ( ) さんのことをこんな力のある人だと思っています  
時間を守る ・ 忘れ物をしない ・ 身だしなみが整っている ・ きちんと意見が言える ・ 決断力がある  
リーダーシップを発揮している ・ 落ち着いている ・ 明るい ・ 冷静 ・ 誰とでも仲良くする  
相手の気持ちになり行動できる ・ 人の意見やアドバイスを聞ける ・ 自分の言動に責任をもつ  
仕事(委員会・係・当番)をきちんとする ・ スポーツが得意 ・ 正しいこと悪いことの判断をして行動する  
裏表がない ・ 誘惑に負けない ・ 公共物を大切に扱う ・ 進んでボランティアができる ・ 優しい  
その他 ( )

資料3

学級目標達成のために

自分の

を生かして

に挑戦する。  
を努力する。

2年( )組( )番 名前( )

資料4

・今日の学級活動を通して、考えたことや感じたことを自由に書いてください。

2年( )組( )番 名前( )

## 6 検証授業2

### (1) 題材「学級のよいところに貢献している人を知ろう」

学級活動(2)イ 自己及び他者の個性の理解と尊重

### (2) 活動のねらい

学級のよいところに目を向け、自分や学級の友達が貢献していることを理解し認め合う活動を行う。


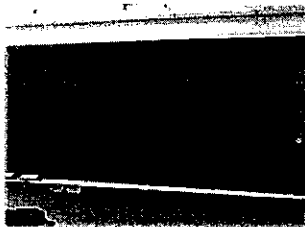
### (3) ねらいに迫るための工夫


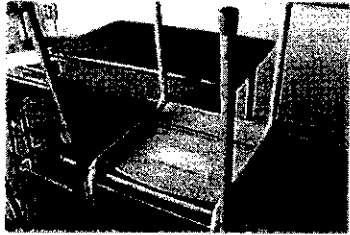
- ①学級の友達が学級のために貢献していることに気づき、認めることができる活動とする。
- ②気付いたことを伝え合う活動によって、学級の友達から認められていることに気付かせる。
- ③活動を日常的に振り返ることができるように、自己の目標の掲示方法を工夫し実践につなげる。

### (4) 評価の観点

観点	集団の向上への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団の向上への知識・理解
評価規準	自他を理解し認め合う学級づくりについての話し合い活動に取り組もうとしている。	自分と他者の個性を生かしつつ集団を向上させることについて考え、実践している。	話し合いの意義や仕方を理解するとともに、集団の向上のために自他を理解し認め合うことの大切さを理解している。

### (5) 展開

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の始まり(5分)	<p>事前の活動 放課後、班長会(P.19参照)で本活動のねらいと流れについて、教師から説明を受け、役割分担を行う。</p> <p>本時の活動 1 司会から本時のねらいと流れの説明をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動の中心である班長会の役割を明確にする。</li> <li>・集団の向上のために、自他の理解を行うことを十分に説明する。</li> </ul>	 <p>【関心意欲態度】活動の意義を理解し、活動に参加しようとしている(観察)。</p> 
	<p>とは何か、キーワードを挙げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見が出にくいときには授業の取組や行事の場面から考えるように助言する。</li> <li>・書記担当の生徒に板書させる。</li> </ul>	
	<p>司会(生徒)「この学級のいいところは振り返り、そのために自分や学級の友達の個性や頑張っている点をお互いによく知るための活動を行います。」</p>		
	<p>司会(生徒) 「この学級のいいところはどんなことですか。」 予想される生徒の反応 「運動会の応援合戦では色々なアイデアを出すことができた。」「給食の準備が速いところ。」「授業中に私語が少ないとほめられたことがある。」等</p>		

展開 (35分)	3 「学級のいいところ」を実現するために自分が貢献していることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに具体的に記入させる。</li> <li>・思い付かない生徒には机間指導で適切に助言をする。</li> </ul>	<p>【知識理解】</p> <p>話し合いの意義や仕方を理解している（観察）。</p> <p>学級集団の向上のために自他を理解し認め合うことの大切さを理解している（ワークシート）。</p>
	<p>司会「黒板に書いてある『学級のいいところ』のために自分はどんなことに貢献していると思いますか。ワークシートに記入しましょう。」</p>		
	4 班の友達がどんなことに貢献しているか、考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切ではない表現に対しては適宜指導を行う。</li> </ul>	
<p>司会「班の友達はどんなことに貢献しているでしょうか。考えてみましょう。」</p> <p>司会「思いついたら友達のワークシートに記入します。記入できたら班の中でワークシートを回して、次の人のワークシートに記入します。」</p>			
	5 班の友達を書いたワークシートを読んで、「学級のいいところ」のために自分が貢献できていることは何かを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを班の中で交換して、順番に記入する。</li> </ul>	
<p>司会「友達が認めてくれた自分の貢献していることを読んで、どのように思いましたか。学級のために貢献する人が増えたらもっと居心地のよい学級になると思います。ワークシートを見ると友達が貢献していることや頑張っていることが分かりました。これから自分も身に付けたいことややってみたいことを考えてカードに記入しましょう。」</p>			
6 今後の目標を書かせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の友達のよいところを知って、「身に付けたい」「やってみたい」ことについてカードに記入させる。</li> </ul>		
	<p>カード記入例1 目標：集団をまとめる力を付けたい。</p> <p>カード記入例2 目標：給食準備では早く着席しよう。</p>		
活動のまとめ (10分)	<p>7 自己の目標を掲示する。</p> <p>8 班で活動の感想を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示板や椅子に掲示し、日常的に振り返ることができるようにする。</li> </ul>	

9 担任のまとめの話を聞く。



教師「自分と友達の良いところを知り、認め合うことで、これからの生活の具体的な目標ができました。お互いの個性を尊重して、より居心地のよい学級をつくっていきましょう。」

## 班長会の実施についての一考察

学級活動は教師が意図的、計画的に生徒の抱える問題を提示し、生徒自ら自分自身の問題に取り組み、その解決を図るための活動である。生徒が自主的、実践的にその活動の中心となるように、司会や書記を担当したり、実態調査などを実施したりすることが望ましい。生徒が活動の主体となって学級活動を展開することができるように、以下に班長会指導の例を挙げる。

### 学級活動を行うに当たり班長会で具体的にを行う内容例

- ・活動の流れやねらいについて、担任から説明を受ける。
- ・学級や学校の生活についてどのような問題があるか話し合う。
- ・活動内容や活動名を検討する。
- ・活動の役割分担を行う（司会、書記など）。
- ・学級の実態調査を行う（アンケートの作成、集計など）。
- ・ロールプレイングの例を考え、練習を行う。
- ・専門的な内容については校内や地域の方にインタビューを行う。
- ・資料の作成（新聞の切り抜きや調べ学習の準備など）
- ・掲示物の作成（活動を円滑に行うための資料、まとめなど）
- ・活動後のまとめを行う（意見の集計など）。



### 班長会実施の例

生徒の放課後の活動が多様化しており、班長会の実施が難しい場合がある。そこで短時間で班長会を実施できるように教師が工夫を行う必要がある。

実施時間	具体的な活動内容	指導の工夫
朝の学級活動後 (3分)	教師が本活動のねらいや流れについて説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にプリントを用意し、短時間で共通認識をもてるようにする。</li> <li>・班長会、実態調査、集計結果の発表、課題の把握、話し合い等、ある程度の活動の流れを固定化することで時間の短縮を図れる。</li> </ul>
放課後 (15分)	活動の役割分担を行う。 活動の事前準備を行う。 (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態調査のためにアンケートを作成し、集計する。</li> <li>・司会生徒と教師で打合せを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当になった作業を、朝や休み時間などに準備ができるように早めに班長会を実施する。</li> <li>・アンケートは行事のまとめアンケートを活用することもできる。</li> <li>・調査の内容によっては個人が特定されないように教師が集計することも視野に入れる。</li> </ul>
放課後 (10分)	活動のまとめを教室に掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の実態に合わせて掲示係や班の活動にしてもよい。</li> </ul>

(6) 検証授業の成果

本事例では、学級のよいところに目を向け、学級集団を高めるために自分や学級の友達が貢献していることを理解し認め合うことで、集団の向上を目指すことがねらいであった。

学級のよいところを発表するのにブレインストーミングの手法を用いることで、多くの生徒が発言、発表しやすい雰囲気をつくることができた。意見を発表することが難しい集団では、付箋紙などの小さなカードに記入させる「カード発想法」の手法等を用いる方法も考えられる。

次にブレインストーミングで挙げられた「学級のよいところ」のために自分がどのようなことに貢献できているかを考えさせ、ワークシートに記入させた。最初は曖昧な表現が多かったが、活動を展開していく中で、具体的に自分のよさに気付くことができた。班の友達から自分が貢献していることを聞く活動の後には、自分のよさについて更に具体的に自信をもって記入できるようになった。今後の自己実現のために記入した活動では積極的に自分と学級の向上のために「目標」を記入した生徒が多く、本活動によって生徒の自己への理解と集団を高める態度が育成されたことが分かる。

本活動では「今後の目標」をカードに記入し、椅子の座面の裏に掲示した。毎日帰りの挨拶をした後に、目にすることができる。掲示場所の工夫をしたことでその日の自分の行動を日常的に振り返り、「今後の目標」を再確認することができるようになった。適切に実践しているかを評価するためには、1単位時間の活動で終わらせることなく、自分で設定した目標を達成することができたかを見直す場面を設定し、継続した指導を行うことが大切である。

ワークシート

- 1 この学級のいいところをたくさん挙げてみましょう。
- 2 自分は「この学級のいいところ」のために、どんなことに貢献していますか。
- 3 あなたが貢献していることを友達に書いてもらいましょう。

クラスを居心地よくするために〇〇してくれているのを知っています。××してくれている。など	書いた人の名前
- 4 班の友達が書いたものを読んで気付いた、自分のよさは何ですか。
- 5 班の友達の貢献していることを知って、「自分もやってみたい」「自分も身に付けたい」と思うことを書いてみましょう。

(7) 生徒の変容

活動中の観察やワークシートへの記入の内容から変容の大きい生徒を抽出し、検証授業前と授業後の自尊感情測定尺度と他者を尊重する尺度、集団の向上に関する尺度の比較を行った。

<抽出生徒 A>				<抽出生徒 B>			
検証授業前				検証授業前			
自尊感情	他者尊重	集団の向上	学級が居心地よい理由	自尊感情	他者尊重	集団の向上	自分が貢献していること
56%	67%	75%	明るいから。	36%	53%	58%	仕事をきちんとする。
↓				↓			
検証授業後				検証授業後			
自尊感情	他者尊重	集団の向上	学級が居心地よい理由	自尊感情	他者尊重	集団の向上	貢献したいこと
67%	73%	83%	協力する人がいるから居心地がよい。今後は自分も協力したい。	53%	76%	83%	責任感があると言われたので、クラスをまとめる力を身に付けたい。

生徒 A はもともと自尊感情が高い生徒であるが、検証授業後は更に全ての数値が向上した。ワークシートの記入からは「委員として周囲に声かけを行う」自分のよさを挙げたが、活動後は自分の呼びかけに応じてくれる周囲の存在に気付き、自分も協力する姿勢を身に付けたいと目標を立てた。生徒 B は自尊感情の低いことが目立った生徒だったが、全ての調査で大きく数値が向上している。「自分の役割を責任もって行う」というよさを、集団の向上のために生かしたい、と前向きな記述が見られた。

<抽出生徒 C>				<抽出生徒 D>			
検証授業前				検証授業前			
自尊感情	他者尊重	集団の向上	学級が居心地よい理由	自尊感情	他者尊重	集団の向上	自分が貢献していること
56%	63%	75%	みんなの仲がよい。	41%	62%	72%	なるべく人と話す。
↓				↓			
検証授業後				検証授業後			
自尊感情	他者尊重	集団の向上	学級が居心地よい理由	自尊感情	他者尊重	集団の向上	貢献したいこと
67%	67%	83%	誰でも平等にみて、助け合える。	67%	67%	81%	人の話をしっかり聞いて、みんなを楽しませる明るさを身に付ける。

生徒 C は学級の居心地のよい理由として自分が貢献していることに気付いていなかったが、学級の友達から「よく話しかけてくれる」「みんなに明るく接してくれる」と評価され、「学級の居心地がよい理由」の記述欄に、自分の貢献していることを踏まえて具体的な記述ができるようになった。そして感想には、「学級をよくするコツが分かった」と答えており、集団を向上させることへのつながりに理解をもつことができたと言える。生徒 D は自尊感情が比較的 low、他者を尊重する感情が比較的高い生徒であった。活動後は友達から認められた自分のよさを具体的に挙げ「友達のよさを見つけることは自分と学級の成長につながる」と力強く答えた。

## VI 効果検証と研究の提言

### 1 効果検証の概要

研究課題に対する実践を行った結果を考察するために、効果検証を行った。

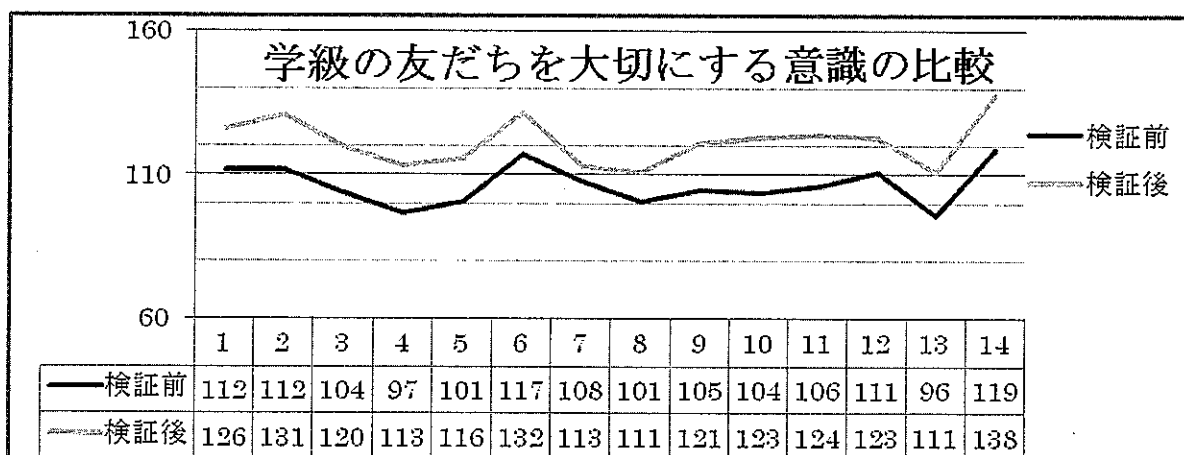
調査は、「自尊感情測定尺度」（東京都版）を活用し基礎研究として都内7校で実施した。

「学級の友達を大切にしたい意識調査」と「集団の高まりに関する意識調査」は、検証授業を行った2校（中学2年生）の2学級（61名）で実施した。

### 2 効果検証の分析と考察

#### (1) 他者を尊重する感情に関する検証

「学級の友達を大切にしたい意識調査」は、集団（学級）の中で友達を大切にしたい意識が高まっているかの調査を行うために開発した。自尊感情測定尺度（東京都版）の三つの要素（A 自己評価・自己受容、B 関係の中での自己、C 自己主張・自己決定）を参考に14項目で作った。各項目とも4件法で調査し（P6の資料参照）、集計と分析は項目ごとに合計値をグラフ化した。



検証授業の前後における意識の比較

本研究において検証授業を行った学級では全ての項目で上昇した。中でも、設問2の「私は今の学級の友達のことが好きである」、設問10「私は今の学級の友達のよさを理解している」、設問14「私は学級の友達を大切にしたい」が19ポイントの上昇をし、設問11「私は今の学級の友達のよさを理解している」は18ポイント上昇している。これらの結果から学級の友達を大切にしたい意識を高める活動ができたと考えられる。また、設問13「自分のことを必要としてくれている学級の友達がいる」について上昇が見られた。これは「自分は学級の友達の役に立っていないのではないか」という生徒の不安が解消され、自分のよさを生かして集団の向上に貢献しようとする態度につながると考えられる。

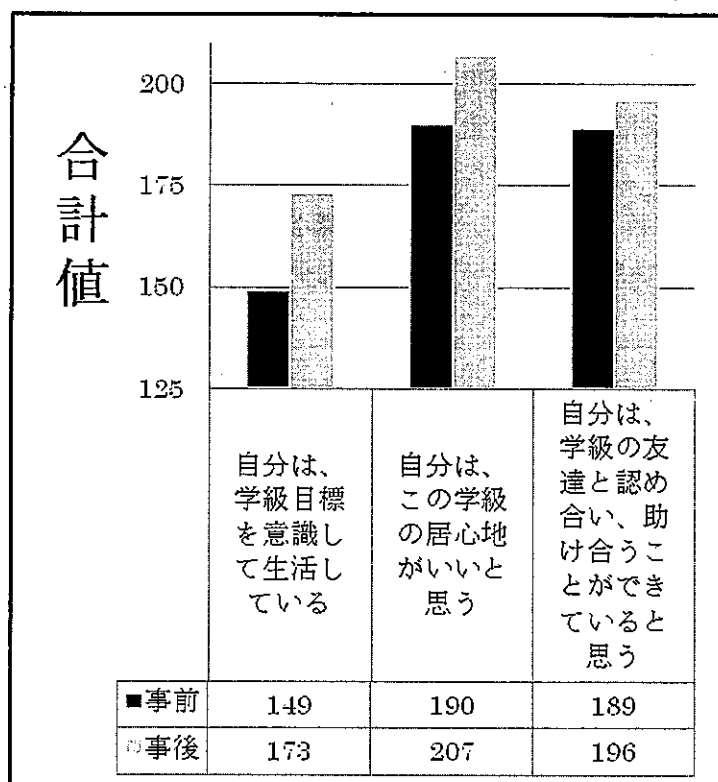
#### (2) 集団の高まりに関する意識の検証

検証授業を行って集団としての学級の意識がどのくらい高まったのかを把握する目的である。本研究会で独自に作った調査で、9月と10月に検証授業を行った2学級（61人）を対象に実施した。

設問1「学級目標を意識する」では、自分の学級に所属しているという意識を調査している。この項目では検証前と検証後では24ポイントの上昇が見られた。設問2「学級の居心地



がよい」では17ポイント上昇した。また、設問3「学級の友達と認め合い、助け合うことができている」では、7ポイントの上昇が見られた。このことから、自分や学級の友達を知る活動を通して、自分と学級の友達のよさを認め合うことができるようになったので、自信を



をもって集団活動に貢献する態度が育ったと言える。また、自分のよさと学級の友達のよさを認め合える学級では自分自身の確かな存在感を感じることができるようになり、学級の友達の存在を尊重することができるようになったので、居心地がよいと感じ、所属感が高まったのだと考察する。

これらの効果検証の調査結果と検証授業の成果を受けて、今回の検証授業において「研究のねらいに迫る工夫」によって、自他を知り、互いに認め合うようになり、互いを尊重する学級集団を高める態度の育成に効果があったと捉えることができる。

集団の向上に関する意識の比較

### 3 研究の提言

検証授業の成果及び検証授業後の調査の結果を受けて、研究のねらいに迫る手だてとして有効であった指導の工夫について次のようにまとめ、本研究の提言とする。

#### (1) 学級活動の内容の工夫

- ア 互いを知り合う活動を自己紹介などの年度初めだけでなく、年間を通して行う。
- イ 自分探しのような活動に加えて、学級の友達から見た自分を知ったり、学級の友達に認められたりする体験活動を行う。
- ウ 集団の向上に自他の個性と尊重を生かすことを関連付ける。

#### (2) 実態にあった年間指導計画の作成

- ア 行事等と関連付けて指導を行う（指導事例P.9～12参照）。
- イ 発達段階を意識して集団を高める態度を育てる活動を取り入れる。

#### (3) 学級活動の具体的な内容と指導方法の整理

- ア 自分を振り返るだけにとどまらず、学級の友達から見た自分を知ったり、学級の友達に認められたりする話合い活動や、意見や発表をする方法を工夫する。
- イ 学級活動を通して知った自分のよさや活動のまとめにおいて自分が決めた目標を実践したり、振り返ったりすることができるように、活動後も継続して班や学級での話合い活動を行ったり、掲示の方法を工夫したりする。

## Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

本研究は、特別活動において「学級集団を高める態度を育てる」ための指導の工夫をねらいとした。具体的には、自他を知り、互いに認め合う学級活動を意図的、計画的に行うことで、自他を尊重するようになり、学級集団を高める態度が育つという仮説の下に、実践研究を通してその有効性を確かめ、その成果を次のようにまとめることができた。

### 2 成果

(1) 自尊感情測定尺度（22項目）と本研究で作成した他者を尊重する態度を測る調査（14項目）と集団向上に関する調査（3項目）の調査研究を行い自他を大切にする気持ちや学級集団の傾向を捉えることができた。

(2) 自分と他者のよいところを認める活動を意図的、計画的に実践する学級活動の指導計画を再構築し指導例を示した。

- |                        |         |
|------------------------|---------|
| ア 友達の紹介をしよう            | (P. 9)  |
| イ 友達と自分のよいところを知ろう      | (P. 10) |
| ウ 好きな言葉を紹介し合おう         | (P. 11) |
| エ 学校行事での互いの活躍を認め合おう    | (P. 12) |
| オ 2学期の個人目標をつくろう        | (P. 13) |
| カ 学級のよいところに貢献している人を知ろう | (P. 17) |

(3) 調査研究により、自分を大切にする気持ちと学級の友達を大切にする気持ちには関係があることが分かり、自他を知り、互いに認め合うことで学級集団を高める態度が育つことにつながる事が分かった。

### 3 今後の課題

特別活動は、生徒の自治的、実践的な活動を目的とするという特徴から、生徒主体の自主的、実践的な活動を展開するために、本研究では学級におけるリーダーである班長会の実施についての一考察を提案した。研究成果により短時間で有意義な学級活動を展開できる工夫が可能で、活動の充実を目指すことができるが、今後もより活動の充実を目指すには放課後などのまとまった時間に班長会や代表委員会を確保することが重要である。

次に、生徒が将来の生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うきっかけや機会となるように教師の適切な指導を踏まえて授業を行って評価をすることが課題として挙げられる。学級活動の評価の観点について、各学校においてより検討を深めることが求められている。評価後には集団の変容や発達の段階を再度考慮して、授業の改善そしてより一層の工夫が必要となる。さらに、そこには活動の展開や評価方法、内容について、担任教師にとどまらず、学年、学校内で共通理解を図っていくことが大切である。

最後に、1単位時間の活動や結果だけにとどまらず、継続して生徒の意見や気づきをより実践していく手だてを与え、支援していくことが必要である。そのためには、その時間内だけに限らず学校生活の全般を通じて、生徒の個性を理解し尊重していく教師の姿勢が大切である。

## 平成23年度 教育研究員名簿

### 中 学 校 ・ 特 別 活 動

地区	学 校 名	職名	氏名
杉並区	東田中学校	主任教諭	堤 智一
文京区	第九中学校	主任教諭	宮澤 伸次
大田区	安方中学校	主任教諭	○山田 達哉
練馬区	石神井西中学校	主幹教諭	◎荒木 忍
調布市	第五中学校	主幹教諭	長野 悟
多摩市	東愛宕中学校	教諭	片桐 雄樹
西東京市	田無第三中学校	主任教諭	秋元 真理

◎ 世話人      ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課  
統括指導主事 青木由美子

平成 23 年度  
教育研究員研究報告書

中学校 特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

平成 23 年度第 181 号

平成 24 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話番号 (03) 5320-6836

印刷会社 有限会社 シーダー企画